

第1学年 道徳学習指導案

日 時 10月15日(木)第5校時
場 所 1年教室
指導者 柿平 哲夫

1 主題名 公徳を尊ぶ心 内容項目4-(2)

2 資料名 「島 耕作 ある朝の出来事」(出典 中学の道徳1 自分を見つめる 暁教育図書)

3 主題のねらい

公共の場での適切な態度を考え、実行しようとする。

* 公徳心が必要であるという気持ちを持つ。

* 公徳心を尊び、やわらかい心を持つことで、住みやすい社会が実現することがわかる。

* 公共の場で勇気を持ち、適切な態度をとろうとする。

4 主題設定の理由

<ねらいの道徳的意味>

気持ちよく社会生活を送るためには、社会の構成員一人一人の公徳心に基づく具体的な行動が不可欠である。ところが、公徳心をいざ実践に移そうとするとさまざまな障害が生じる。恥ずかしさや面倒くささ、自己中心的な考えなどが頭をもたげてしまう。実践には勇気が必要である。

また、よりよい社会の実現のためには、実践する勇気を持つだけでなく、その実践を効果あるものにしていくため、他人の立場について想像力を働かせるいわば配慮も大切である。公徳心の適切な表現の方法についても考えさせたい。

<ねらいからみた生徒の実態>

アンケートによれば、1年生は公徳心について、意識の面でも行動の面でも低めの結果がでている。また意識はしても、行動に移せていないという傾向があることが明らかとなった。全体的には明るく伸び伸びと生活しているが、学習習慣が身につけていない面もあり、授業中について私語をしてしまう生徒、休み時間と大差ない話し方をする生徒がいる。また他者を傷つけかねない不用意な発言をする生徒もいる。他者の気持ちを十分に考えない言動があり、それを許してしまう学級の雰囲気があるようだ。

以上のことから、公の場という意識が希薄で、その場にふさわしい言動が十分にできていないと考えられる。今後進級し上級生となった時には、生徒会活動や部活動などの公的な場での活躍が期待される。また職場体験や進路選択では中学校の外の社会とかかわっていかなくてはならない。公共の場での適切な態度をとることができれば、お互い気持ちのよい社会が作られるのだという自覚を持たせることが大切であろう。

<資料の道徳的教育的意味>

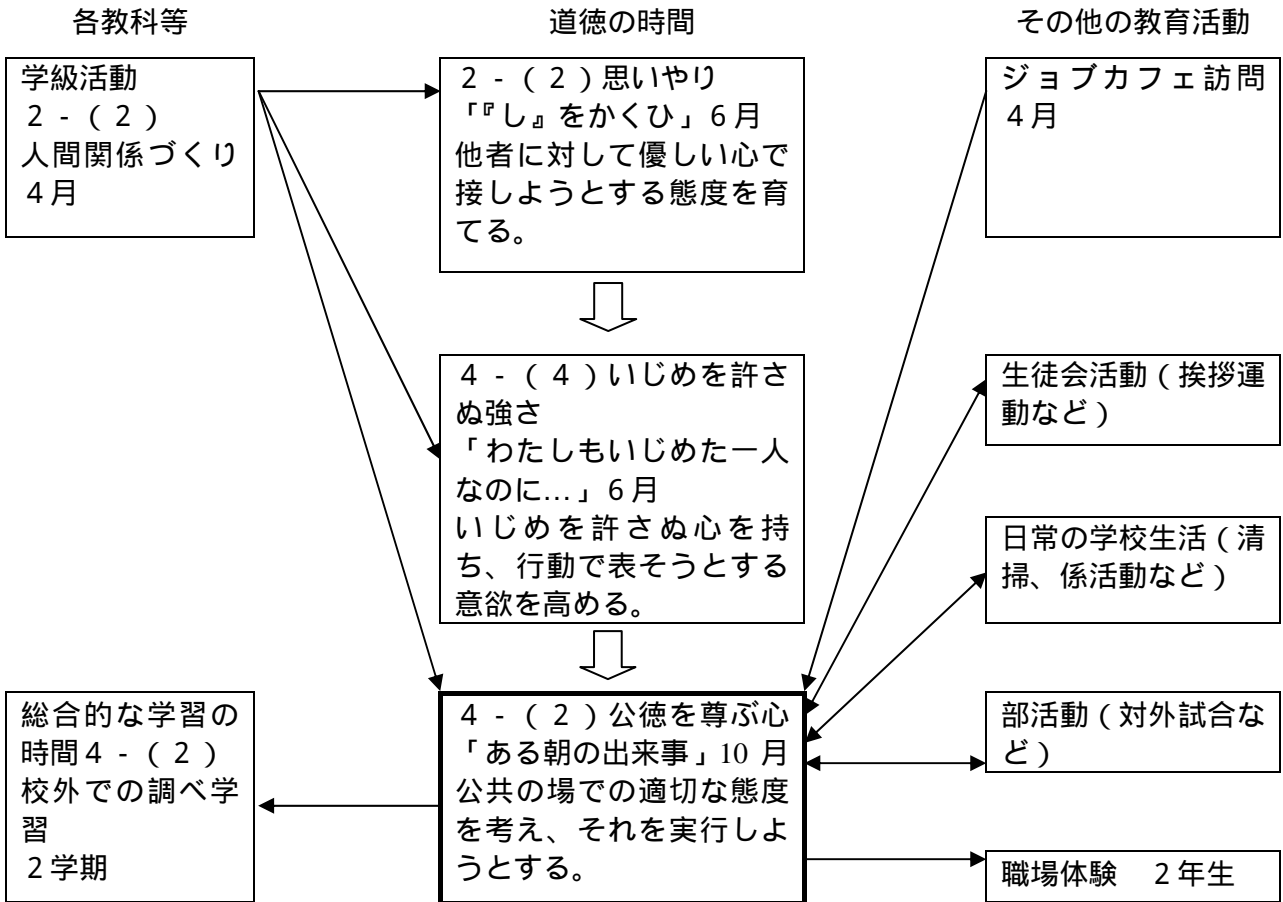
満員電車で立ったまま苦しんでいるおばあさんの前で座席に着き新聞を読んでいるサラリーマンに、島耕作は席を譲るよう声をかけるが、拒否されて口論となる。サラリーマン、島それぞれの態度や言い

分をどう考えるか。またサラリーマンに欠けていたものは何か。島に欠けていたものは何か。このような視点から考えをめぐらすことによって、公德心を考えるきっかけとしたい。

5 研究課題との関連（ 善悪の判断、きまりの尊重などの規範意識をはぐくむ道德教育）

本校の研究課題の一つに「規範意識」がある。「規範意識」は「公德心」の基盤ともいえる。本学級で課題となっている公德心について考える機会を持つことが、規範意識の高まりにつながっていくことを期待したい。

6 関連連携のための指導計画



7 資料分析

場	老婦人乗車	老婦人サラリーマンに謝る	サラリーマンと島との口論		
サラリーマン	平然と新聞を読む。	応答しない	反論「仕事で二時間しかねてないんだ」	座る権利「始発駅で二十分も並んだ」	
島耕作			「席をゆずって」	怒った島は...言い返す	「(権利の問題ではなく)あなたの気持ちのことを言っている」
島耕作の心の動き			無神経さに業を煮やす。	予想外の反論に腹を立てる。	ますますムキになっていく。

8 準備 副読本、心のノート、ワークシート、フラッシュカード

9 展開

主な学習活動	指導の方法	生徒の心と力の高まり
<p>「公德心」とはどのようなものを学ぶ。</p>	<p>心のノート p 96 を示し、公德心のない人を具体的にイメージさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「公德心は必要だ。」 ・「公德心とは、みんなで使う物や場所での心がけ。」
<p>「公德」という主題を念頭に置きながら、「ある朝の出来事」を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サラリーマンと島耕作とを比較し、どちらが公德心があるかについて話し合う。 ・二人に必要なものとは何だったのかを考える。 <p>「互いをいたわる心持ちたい」を読み、公德心を実践するために必要なことを考える。</p>	<p>発問 サラリーマンと島耕作とを比べよう。公德心があるのはどちらの方だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公德心があるのは島耕作であるという回答が予想される。しかし島耕作にも欠けているところがあるということに気づかせたい。 <p>発問 二人に必要なものはどんな心だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「公德心」という言葉だけで終わるのではなく、掘り下げて考えさせたい。 <p>発問 同じ電車の中で起こった出来事です。「ある朝の出来事」とどこが違うのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「島のほう。サラリーマンは自分のことしか考えていない。」「島は親切な気持ちがある。」 ・「島もムキになって、議論に勝つことしか考えていない。」「満員電車で口げんかは他の人に迷惑。」 ・「公德心。」「相手のことを思いやる心。」「周りに迷惑をかけないようにする心。」 ・「みんなが気持ちよく過ごせるよう気をつける心。」 ・「『すみません』とか『申し訳ない』という言葉があり、思いやりがある。」「相手に不愉快な思いをさせないように気遣っている。」
<p>今日の学習を振り返って自分の考えをまとめてみる。</p> <p>詩「せともの」を聞く。</p>	<p>発問 今日の道徳で何を学んだのか。書いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時を振り返ったあとで、ワークシートに記入する。 	<p>評価 公共の場で、やわらかい心にもとづいた適切な態度をとろうとする記述がある。</p>

公德心

みんなで使う物
みんなで使う場所
いたわり
思いやり
気がけ
気遣い

サラリーマン

(生徒の発言から)

- ・自分のことしか考えていない。
- ・お年寄りに冷たい。

島耕作

(生徒の発言から)

- ・島は親切な気持ちがある。
- ・口げんかは他の人に迷惑。
- ・議論に勝つことしか考えていない。

どんな心が必要だったのか？

(生徒の発言から)

- ・相手のことを思いやる心。
- ・周りに迷惑をかけないようにする心。
- ・みんなが気持ちよく過ごせるように気を
つけようとすること。